

編集 後記

精神保健福祉分野で仕事をしていて感じるのですが、保健と医療と福祉の包括的な取り組みの重要性が認識されるとともに、それぞれの職種のアイデンティティの主張の問題が出てきているように思います。たとえば精神保健福祉士あるいは精神保健福祉相談員、看護師、保健師のアイデンティティを日常の仕事の中ではっきりさせたいとの要望を聞かされます。

わたくしの専門のひとつに、精神障害者の家族心理教育があります。たとえば一昔前だと、家族に統合失調症のことを説明するのは医師以外にはできないと考えられていた時期もありました。しかし、現在ではほとんどすべての職種の方たちがこの心理教育に取り組んでいます。その中でしばしば、家族心理教育をどの職種が主体となってやるべきなのかということが問題になります。わたしの応えは、「誰がやっても良い」です。「もちろん、その職種ごとに内容が変わってきますよね」と言われますが、わたしは個人的な資質よっての違いはあるが、職種による違いはないと言っています。精神障害者のケアマネジメントでも同様のことを主張します。(この場合、サービス提供場面でのニーズに応じた役割分担はありますが..)

「根拠に基づく実践」を行うのに職種は関係ないと思っているのです。そして、その実践の中から新たなアイデンティティが見いだされるのではないかと考えています。その新たなアイデンティティは職種というカテゴリーを踏み越えたものになるでしょう。そして、研究でも同様に、職者間の違いはなくて良いと思っています。ある確立された方法論を用いれば職種は関係ありません。公衆衛生学雑誌にさまざまな職種の人たちからの投稿があります。その中で新しいアイデンティティがどんどん生まれて行っているのではないのでしょうか。

(三野善央)

次号予告

総説

高齢者の早期死亡ならびに身体機能に及ぼす社会的サポートネットワークの役割
—内外の研究動向と今後の課題—

.....岸 玲子, 他

原著

多胎児をもつ母親のニーズに関する調査研究—単胎児の母親との比較分析—.....横山美江, 他

資料

全国の都道府県保健所・市町村における健康危機管理機能への対応状況とその関連要因

.....杉浦裕子, 他
医師・歯科医師・薬剤師調査の個票データを使用した届出率の推計.....島田直樹, 他

第2回

日本医師会 感染性廃棄物安全処理推進者養成講座 —受講者募集のご案内—

目的 平成12年の「廃棄物処理法」の改正により、医療機関はこれまで以上に排出者責任はさらに重いものとなり、廃棄物の安全な処理・処分とその十分な管理が必要とされる状況となっております。

本講座は医療機関などで、感染性廃棄物等の処理管理を担っている人の能力のレベルアップを目指し、感染性廃棄物を中心とした①基礎的な処理処分体系及び方法、②医療現場における安全な処理管理方法、③委託処理方法及び関連法規等からなるカリキュラムにより、「感染性廃棄物安全処理推進者」を養成することを目的とするものです。当講座修了者には、日本医師会会長より「感染性廃棄物安全処理推進者養成講座修了証」を発行する予定です。

方法 受講希望者は、下記項目を明記の上①, ②, ③いずれかで日医総研

*講座名、氏名、年齢、性別、書類送付先・住所、勤務先・所属、連絡先電話番号・ファクシミリ番号①E-mail: inf@jmari.med.or.jp ②FAX: 03-3946-2138 ③郵送: 〒113-8621 東京都文京区本駒込 2-28-16 日医総研

受講料;年間84,000円(税込):H16.3~H17.2(含9教科テキスト・3回 講習会)

申込締切;平成16年2月20日 先着順(申込後、順次正式な申込書類送付。)

問合せ先;日医総研 03-3942-6141